

事業計画書（公表用）

1 管理運営にあたっての基本方針等

(1) 施設の現状認識

「花と緑に親しむ場の提供」

開園して20年が経過したことで、家族3世代や友人との憩いの場として利用されるとともに、子育て支援の取り組みにより、こども連れの利用が増加している。引き続き、来園者自らが土と植物に触れながら、安心かつ安全に楽しめる公園を目指す。

「花のある生活の提案」

花のある生活が、個人の住宅や地域の花壇づくりに、ごく自然に取り入れられ、花が生活に身近な存在になりつつある。引き続き、気候風土や趣向にあった提案を行うとともに、様々な体験、教室を通じ、生活の中に花を使いやすく、より身近に感じてもらえる提案を行う。また、花のまちづくりを応援する取り組みも継続する。

「花に関する情報発信」

隣接する山口県花き振興センターと連携した、花の公園ならではの品目・品種にこだわり植栽をしている。また、ガーデニング講座などを開催し、より高度な園芸知識の普及に努めている。山口県が開発したオリジナル花きについては、様々なイベントや展示会を開催しており、今後も認知度の向上に向けて、使い方の提案など情報発信に努める。

「花きの消費拡大」

開園以来、20年間にわたり、それぞれの生活シーンに合った花きの使用方法や、気候風土や趣向にあった花のある生活を提案するなど、花きの消費拡大に努めている。「良い夫婦の日」や「愛妻の日」など、日常生活の中で機会あるごとに花を贈る習慣など、花のある生活の定着に向け、山口県花卉園芸推進協議会や山口県花卉園芸農業協同組合との連携により、花の地産地消や消費拡大につなげていく。

「花き振興」

園内に植栽する花壇苗は、柳井市周辺の生産者のみならず、山口県花卉園芸農業協同組合等関係団体との連携により、県内の他の地域で生産される苗の供給体制も確立しており、引き続き県内全域の花き振興に取り組む。

「顧客満足度の向上」

フラワーランドは花きに関わる施策はもとより、山口県東部地域の観光資源としての位置付けも強まっており、交流人口の増加も視野に置き、地域や団体と連携し顧客満足度の向上に努め、リピーターの確保につなげる。

(2) 管理運営に当たっての基本方針

○花きの消費に対する意識の高揚を図り、地域の花き振興に寄与するように努める。

花のある生活の創造につながる、多様なガーデニングを提案し、花き消費に対する意識を高める。

気候・土壌条件に馴染む地元で生産される「こだわりの花苗」を花壇苗として利用することにより、花きの地産地消の促進や花き育苗の知識向上、生産・販売等に関する情報提供により、花き生産者の養成、産地化を支援する。

○自然環境を活かしたふれあいの場として活用する。

フラワーランドは、棚田の地形や周囲の山林が極力自然のまま残され、庭園内には地域の歴史的建造物である長溝水路も活かされた施設となっている。里山環境やビオトープを保全し、自然と歴史、造成された庭園等を一体的に利活用し、交流、ふれあいの場として提供する。

○地域との連携による参加型・交流型の運営を行い、リピーターの確保に努める。

市民、学校、各種団体等に働きかけ、コミュニティーガーデンの庭づくりに積極的に参加を促し、

地域と共に育つフラワーランドを目指すとともに、イベント・講習会等を充実させ、情報の受発信を行い、花・緑に対する活動を活性化させる。

- こどもから高齢者、障がい者等の区別なく、誰でも参加できる企画・運営を行う。

フラワーランドは、ユニバーサル施設計画を基に整備されている。園芸療法等の考えを取り入れ、花や園芸の持つ「心の癒し」、「心の健康」の効果を検証するとともに、緑や土と触れ合うことで、あらゆる人に安らぎを感じてもらえる運営を行う。

- 子育ての支援につながる取り組みを実施する。

花と緑に囲まれた自然環境の中で、妊娠・出産・育児の支援につながる取り組みとして、花や自然と触れ合える体験等を提案するとともに、次世代を担うこどもたちが、花に親しみをもち、花と関わる環境づくりに努める。

- 山口県花き振興センターと連携した運営に努める。

山口県花き振興センターとの連携を密にした運営を行うことにより、県産花きの生産、山口県民への情報提供、販売促進など相互に機能を補完しながら、相乗効果を発揮できるよう努める。

- 他の各種施設と連携した運営に努める。

やまぐちフラワーランドのPRと花の情報発信に努め、地域全体の魅力増加と活性化を図る。

- ボランティアの参画による運営の活性化に努める。

開園当初から組織している「フラワーランド倶楽部」(R7年度現在の会員数140人)を中心に、園内ガイドやワークショップ、花壇管理等にボランティアとして参画していただき、施設運営を活性化させる。

- 民間事業者との連携について、調査・研究を進め、その具現化を目指す。

イベントの企画、物販施設の運営など、花壇の管理以外の分野で民間活力を生かした斬新な手法を導入するため、民間事業者との連携について調査・研究する。

- 公の施設として、平等な施設使用の確保に努める。

- 常に経費を精査し、業務を見直すことにより管理経費を節減する。

2 業務についての方針及び実施計画

(1) 実施内容の概要

- ① イベント、展示会、講座等の実施計画について

それぞれの季節の中で花の美しい時期に合わせ「四季のイベント」として、大道芸、ライブ、各種の体験コーナーなどの企画を複合的に実施する。それに加え、月のイベントとして、様々な体験・教室を企画し、花のもつ多様性や飾り方などを紹介し、園芸に親しむ場を来園者に提供する。毎月第3日曜日の「家庭の日」には、家族で楽しめるイベントを開催し、こども連れの家族やグループでの来園を促進するなど、子育て支援に関するイベントを充実させる。

また、市内、県内の施設や団体と連携し、イベントや展示、体験ブースの出展、スタンプラリーを開催するなど、地域全体の魅力増加と活性化を図る。さらに、山口県花卉園芸推進協議会や地元の各種園芸団体等と連携し、県内産花きや生産者のPRの場として、展示や直売、アンケートなどを実施する。

- ② 花きに関する情報の収集及び発信の実施計画について

園芸の技術水準や、ガーデニングに対する来園者の意識を、さらに満足させるような情報の収集・発信を行う。隣接する山口県花き振興センターと連携し、新品種の生産に向けた情報や種苗メーカーからの品種紹介など、県内花き振興に寄与する情報発信を行う。

- ③ 施設の利用促進への取組について

開花情報や催事情報を、ホームページやメールマガジン、SNSなど様々な情報ツールにより発信する。他県への広報・PRについては、広島市植物公園等の類似施設と連携し進める。

20周年を迎えるにあたり、記念イベントを実施するとともに、年間を通して、通常開催されるイベント等についても、20周年を記念する内容を盛り込み実施する。

また、きらら博記念公園のフラワーガーデンと連携し、イベント情報誌の設置や開花状況の共有等、相互利用を促進する取り組みを行う。

④地域や団体等との協働について

コミュニティーガーデンは、地域の団体や企業、花好きのグループの方が自由に参加できる花壇として運営する。また、花と緑を愛好し、フラワーランドの運営に対する助言やボランティア活動していただける方で、「フラワーランド倶楽部」を組織している。

園内に植栽する花壇苗等については、山口県農業協同組合南すおう統括本部管内で産地化を進めてきた。不足の苗については、山口県花卉園芸農業協同組合等関係団体との連携により、県内の他の地域で生産される苗の供給体制も確立しており、県内全域の花き振興に取り組む。

また、花き振興センターとも協力しながら、県内花き振興に寄与する情報発信を行う。

(2) 実施体制

平成18年の開園以来、4期20年間にわたって指定管理者として培ったノウハウをさらに発展させ、次期指定管理に活かす。

庭園管理業務に長年携わってきた職員や園芸療法士の資格を持つ職員に加え、庭園監督には、園芸関連学科等の卒業者を採用している。その他の職員・スタッフも、実務経験を積み重ねており、効率的に業務を遂行している。朝礼は毎日、定例会議は隔週（第2・第4火曜日）、全体会議は年1回で開催しており、そうした場を活用して、随時職員研修を行う。

その他、柳井市との連携により定期的に各種講習会へ参加する。